

「人間力」を磨くということ

『耕人塾』では、志を高くもった中・高校生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育てることを目的にしています。「人間力」を磨くためには、「徳」を養い、「心と体」を鍛え、「知」を高めることが必要です。『耕人塾』では「人間力」を「徳・体・知」の面から次のように捉えています。

「徳」とは、人としての価値のある行いや精神の修養によって得た優れた品性のことです。すべての人は心の中に「徳」をもっていると言われていています。自分の中にある「徳」を見つけ、自らの意志で自分の「徳」を養い育てていくことが必要です。具体的には誠実・真心・礼儀・使命感・規範意識・親切・思いやり・謙虚・感謝などの徳目を日々の生活の中で意識して実践していくことです。例えば、大事なことで失敗してしまったとします。そのようなときは弁解をせず、正直に誠実に理由を話し、素直に謝ることが大切です。今後そのような失敗をしないよう改めれば、一步成長したことになるのです。思いやりや感謝の心を形に表すことも自分の成長につながります。そのような普段の積み重ねが「徳」を養うことにつながるのです。

「体」とは、心と体のことです。「体」というと肉体のことだけが優先されてしまいますが、心と体は深いつながりがあり、表裏一体であると考えます。心身の健康を保ち、体力や運動能力を高めるためには心と体を鍛え、食育も含めて基本的な生活習慣を整えることが大切です。例えば、決められた時間に自分で起きる、心身を鍛えるため運動を継続する、忍耐力を養うため高い目標を設定して挑戦する、普段の基本的な生活習慣を見直し、日々の生活の中で規則正しい生活を実践していくということです。特に、人生の成長期にある中・高校生時代は心身を鍛えることが一生の財産になります。

「知」とは、知識や技能、学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力などのことです。特に、中・高校生の時期に自分の「志」をしっかり立て、目標達成に向けて一心不乱に勉強に打ち込むことが大切です。この時期の努力が一生の土台になるからです。そのためには、自分はどのような生き方をしたいのかという「志」が大切になってきます。目標とする生き方を目指すためにどのような勉強をどの程度やらなければならないかを自覚し、具体的な計画を立てて日々努力することです。環境の変化によっては自分の進路を変えざるを得ないこともありますが、「志」を立て、その時々目標に向かって努力したことは決して無駄にはなりません。

「人間力（徳・体・知）」を磨き、地域や社会に貢献できる人間になるよう努力しましょう。

「逆境は順境也」：世の中は思い通りにならないことが多いものです。どうして自分だけがこのような目に合わなければならないのかと思うようなこともあります。時には、自分の努力ではどうにもならない場合もあります。そのようなときはどうすればよいのだろうか。私は、自分に与えられた境遇は天命だと思って受け止めるようにしています。そして、その事実に対して、正直に、誠実に対応するしかないと思っています。そのように思って努力していると、いつしか霧が晴れるように道が開ける時が来ます。そして、その時の苦労が自分を成長させてくれたのだと後で気付きます。逆境は順境だったと思える時が必ず来ると信じています。